気になるこの用語 第81回

消費生活相談の周辺用語を取り上げ、やさしく解説します。

小木曽 健 Ogiso Ken
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター　客員研究員
講演やメディア出演を通じ、ネットで絶対に失敗しない方法を伝えている。全国の企業・学校などで2,000回以上の講演。著書に『ネットで勝つ情報リテラシー』(筑摩書房、2019年)ほか多数

SNSって何？

日々の暮らしやメディア報道で毎日のように耳にする「SNS」という言葉。今や幅広い層が利用する道具ですが、もし「SNSって何？」と聞かれたら、皆さんはどう答えますか？ 今回は知っているようで知らないSNSのお話です。

SNSは戦前からあった？

SNSどころか、インターネットすらあまり使わないよ、という方に、SNSを一発で理解していただける説明方法があります。50歳代以上の方なら覚えていらっしゃるでしょう。昔、駅の改札にあった黒板の伝言板。実はあれこそ、まさにSNSそのものなのです。

SNSとは「**人と人を結び付け、その結びつきを強める**」というもの。今やすっかり見なくなった黒板の伝言板ですが、機能はSNSとまったく同じです。あれこそSNS。あの黒板が機械仕掛けになり、世界中から見られるようになった道具、それが「現代のSNS」なのです。つまり、実は年配者こそSNS利用の先輩だといえるんですね。

似たような存在として、「電柱に貼られた迷子のペットを探すポスター」なんかもSNSそのものでしょう。実際「X」(旧Twitter)には、迷子のペットを探す投稿が、電柱のポスターと同じ目的で載せられています。貼られる場所が電柱からSNSに変わっただけ、使われ方は変わっていないのです。

こう考えると、SNSに載せてよい内容、ダメな内容も、おのずと察しがつくでしょう。黒板や電柱に貼りだせるものなんて、たかが知れていますから。

カラオケと駅前ミュージシャン

では、もし「せっかくだから私もSNSを始めてみたいな」と言われたら、皆さんはどんなSNSをお勧めしますか？ 大人でも使いやすい代表的なSNSといえば「Facebook」と「X」ですが、どちらも見た目が似ているので、同じようなSNSと思われがちです。でも実はこの両者、似て非なるものなのです。

まずはFacebook。これは言うなれば、友人同士で楽しむカラオケのようなもの。友達とカラオケに行って歌えば、拍手をしてもらえるし「よかったよ」といった感想も言ってもらえますよね。Facebookで繋(つな)がる人は、実生活でも関(かか)わりのある知人・友人が多いので、「天気がいいな」とか「ラーメン食べたよ」といった何気ない投稿でも、誰かが何かしらの反応をしてくれます。ビックリするような出来事は少ないですが平和な世界。これがFacebookです。

一方でXは、いわば「駅前で歌うストリートミュージシャン」のようなもの。目の前を通るのは見ず知らずの大勢の他人。なかには酔っ払いやガラの悪い連中もいるでしょう。ヘタな演奏をすれば空き缶が飛んでくるかもしれない。でも……もしオーディエンスが感動するような素晴らしい演奏ができれば、その場にいる何百人もの見ず知らずの他人から「ウォーッ」という喝采を浴びる(かもしれない)。これがXです。

Xへの投稿は、基本設定が「誰でも見られる」ようになっているので、見ず知らずの人からコメントが付いたり、思わぬ拡散をしたりする場合があります。なかには辛辣(しんらつ)な意見や誹謗(ひぼう)中傷だってあるでしょう。ネット炎上だって起きるかもしれない。

でも多くの人を納得させるようなキレのあるコメントを書けば、それが何万人もの人たちに

拡散し、称賛される可能性もあります。いわゆる「**バズる**」という現象。これはFacebookではなかなか起きない現象です。

SNSは目的で選ぶ

ここまで読まれた方は「Xって怖そうだからFacebookにしよう」と思われるかもしれませんが、でも大丈夫。Xには安全な使い方があります。**アカウント**を作って、気になるタレントや著名人をフォローして、あとはその人たちの投稿を見るだけ。これなら問題やトラブルは起きません。

Xの「おすすめ」というタブには、あなたが好みそうな面白いアカウントや、話題になった投稿が自動的に表示されます。気になるアカウントを見つけたら新たにフォローするのもよいでしょう。思わぬ発見や、新しい考えに触れることもできます。とにかく見ているだけなら何も問題は起きません。

ではFacebookはどうか。実は長い人生を過ごしてきた方ほど、Facebookに向いているのです。Facebookはその人の所属団体や過去の職場、職歴、卒業した学校などを登録することで「もしかしたらこの人はあなたの友達かもしれません」と、知り合いと思われる人物を勝手に探し出し、教えてくれるという非常に強力な機能があります。私はこの機能で「小学5年生の時に塾で隣の席だった子」と再会しました。

Facebookの「**知り合いかも**」機能は、登録した経歴のみならず、接続しているネットワーク機器や既につながっている人間関係まで分析し、驚くほど正確に「友達かもしれない人」を探し出します。あまり穏やかではない例ですが、昔の恋人が「友達では？」と表示されたことも……よくある話です。

もちろん「え!? この人とは繋がりたくないな」という場合は、その提案を無視すればよいし、もしそんな人から「友達申請」が来ても「ちょっとよく分からなくて」と気がつかなかったふりをすれば問題ありません。SNSはただの道具、自分や他人に不利益がない範囲で使いたいように使って構わないのです。

プロフィール欄を活用しよう

FacebookにもXも自己紹介をする「**プロフィール**」欄がありますから、ぜひ有効活用しましょう。例えば、「私は自分や家族の顔写真・実名などをネットに載せたくないなあ」という場合は「本名や顔写真は載せないようにしているのでご協力を」と書いておくことで、コメント欄に不用意な書き込みをされる可能性を減らせます（ゼロにはできませんが……）。

先ほどの「繋がりたくないなあ」という人への対策としては「滅多（めった）に見ません」とか「使い方がよく分からず」といった一言を載せておくことで、気がつかなかったという言い訳をしやすくなります。

またXについては、アカウントを複数作成できるので、趣味など用途を絞った使い方もお勧めです。私は「仕事用（本名）」「プラモデル用」「バイク用」、それぞれ別アカウントを作成し、プロフィール欄はそれに関する情報だけ、フォローするアカウントも限定しています。同じ趣味を持った、年齢も業界も違う人と交流できる、SNSの良さを活（い）かした使い方でしょう。

第三の人間関係

SNSが出現する前から、私たちにはメールや携帯がありましたが、例えば、職場が変わる、引っ越しをするなどで人間関係が途切れてしまうことは珍しくなかったはず。連絡先を知っていても、その人と「繋がり続ける」わけではありません。つまり当時の人間関係は「繋がっている」か「切れている」の2種類だったのですが、SNSが、第三の人間関係ともいえる「切れていない」を作り出しました。

もう20年も会っていない友人が、昨日のランチに食べたカレーを知っている。20年ぶりに会っても「昨日のカレーって……」という会話から始められる、まさに「切れていない」人間関係です。これが素晴らしいか面倒くさいかは人それぞれですが、社会に新たな選択肢を与えたという意味では、SNSが社会に与えた影響は小さくないのです。